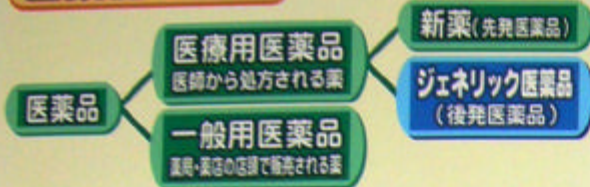


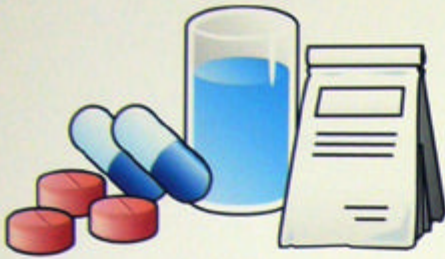
ジェネリック医薬品

医薬品の分類



ジェネリック医薬品とは?

新薬は開発メーカーによって独占的に製造・販売できる特許期間があります。特許期間が終わると他の医薬品メーカーでも同じ効き目の薬を、製造・販売することができるようになります。新薬に比べると開発コストが抑えられるので新薬の約3~8割りという安い価格で販売することができます。これがジェネリック医薬品です。
 「ジェネリック (generic) は『一般的な』『総称の』という意味を持つ英語です」



後発薬の品質は?

同一成分の医薬品でも溶ける早さが異なると身体に及ぼす薬の効き目の影響に差が出てくるため1995年から薬が体内で溶ける速さを先発薬と比較する「溶出試験」を後発薬メーカーに義務付けました。また、1994年以前の薬は「品質再評価」の対象として順次溶出試験をすすめておりその結果を公表しています。

高血圧症の場合

高血圧症の代表的な薬を1日1回、1年間服用した際の薬代

	新薬	ジェネリック医薬品	差額
1年間 老人保健(1割負担)	3,290円	730円	2,560円
老人保健(2割負担)	6,570円	1,460円	5,110円
健保・国保(3割負担)	9,860円	2,190円	7,670円

(2006年4月現在) ※薬代のみを計算した場合です

利用の仕方

後発医薬品(ジェネリック医薬品)への『変更不可』欄に、医師のサインがない場合、薬剤師と相談の上患者さんが「ジェネリック医薬品」を選ぶことができます。後発薬の処方望む方は、診察の際、医師に「今飲んでる薬に後発はあるか」と聞きましょう。薬剤師からも、後発薬の種類がどれほどあるか? 95年以降の品質再評価で承認済みか? 新薬との値段の違いは? 等の情報を積極的に聞くようにしましょう。



エッ? こんなにかかっているの?

日本の医療費は年間約、30兆円です。そのうち薬代は約6兆円です。特許期間が満了している薬の全てがジェネリック医薬品に替わると日本の医療費は年間1兆円も節約できると言われています。

処方箋の様式が変わりました。この欄に、医師のサインがない場合は、「ジェネリック医薬品」を選ぶことができます。

ここが変わりました

